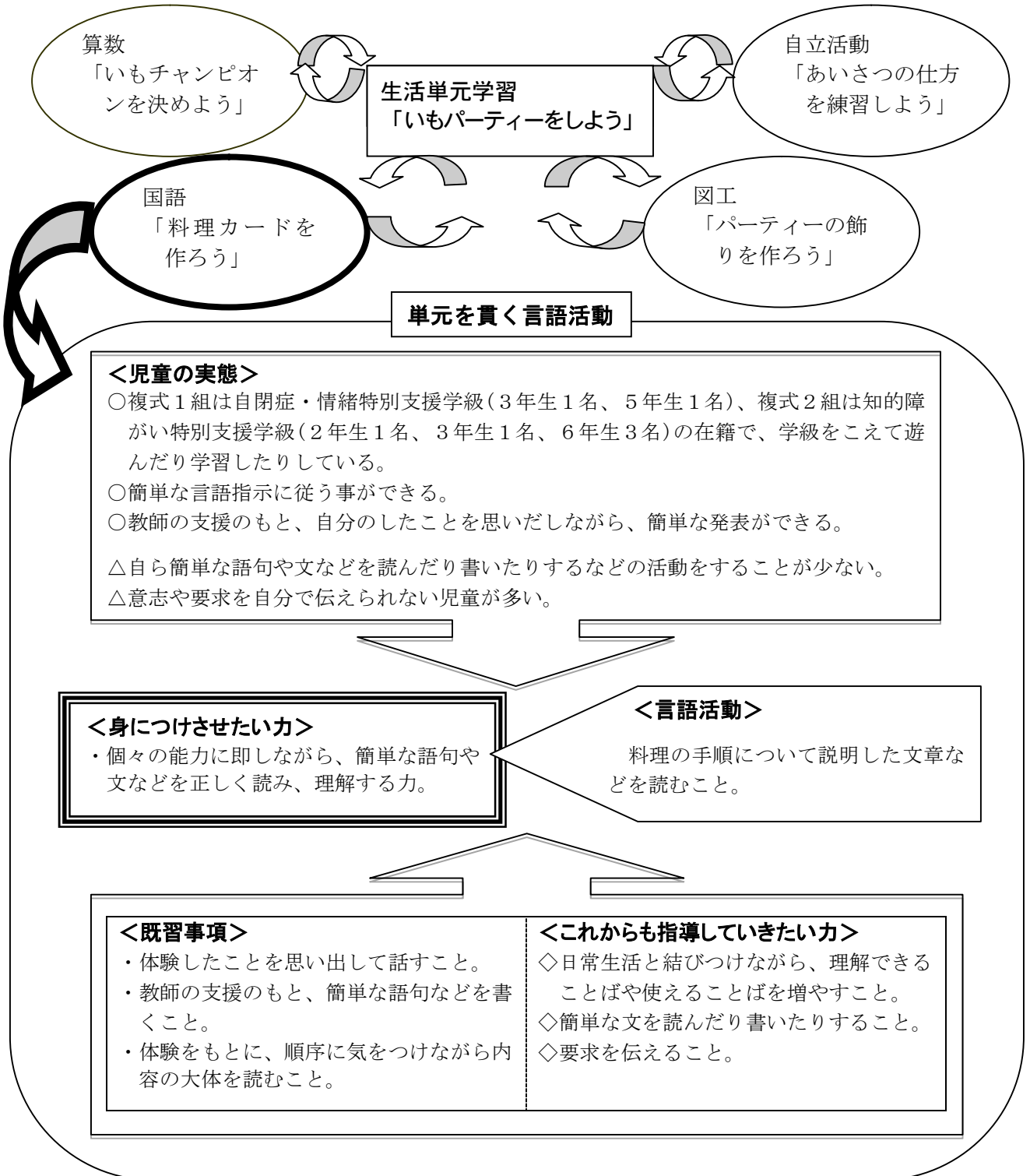


特別支援学級 国語科学習指導案

児童 複式1組 2名
複式2組 5名
授業者

公開授業Ⅰ 特別支援学級

1. 単元名 料理カードを作ろう～いもようかん～
2. 身につけさせたい力と単元を貫く言語活動の構想



3. 単元について

(1) 言語活動の特徴とつきたい力との関係

特別支援学校の国語における目標は「日常生活に必要な国語を理解し、伝え合う力を養うとともに、表現する能力と態度を育てる」である。国語を理解し表現していくために、児童のもつ語彙をひろげることは必要なことである。児童の実態から学習内容を生活と結びつけることで、ことばにかかわる関心と必然性を高め、使うことのできることば、聞いたことのあることばを増やしていくことができると考える。

そこで本単元「料理カードを作ろう」は、生活単元学習「いもパーティーをしよう」のなかで、収穫したさつまいもを使ったはじめて作るおやつを一人一人が自分で作ることを目指したい。そのために、料理カードは、個々の国語科の指導内容に即しながら、実際の調理場で活用できるものを作成する。カードを作るには、動作や様子を表すことば、道具の名前などを助詞でつなぎながら、文を作らなければならない。こうした過程においてことばのひろがり期待できると考えた。また、作成に当たっては、読む力だけでなく、書く力についても考慮したカードとする。

(2) 指導にあたって

子ども達がレシピのことばを具体的にイメージできるように、映像を活用した授業を展開していく。7人の指導内容が異なるので、「動詞のみを書く」「助詞を入れて書く」など、カードに書く内容を色分けし板書に位置付ける。

また、カードの有用感を感じ、主体的にカード作りに向かうように、生活単元学習での調理活動を並行して行う。

4. 単元の目標

- ・文章などから作り方や手順を読みとることができる。
- ・作り方や手順がわかり、自分のカードに表すことができる。

5. 単元の指導計画（7時間）

次	時	学習計画	ねらい	主な学習活動	評価
第一次	1	・学習計画を立てよう。	・学習の見通しをもつことができる。	・芋ようかんを教師が作っている様子をビデオで見る。 ・ビデオから作り方をカードにすることを知る。 ・作るカードの枚数を知る。 ・教師と一緒に学習計画を立てる。	・学習の見通しをもつことができたか。
第二次	1	・作り方を文にしよう。	・作り方を読み取り、カードに表すことができる。	・映像を見ながら、1文ずつの短い文で作り方を表す。 ・手順の1～4までをカードに書く。 ・ことばに関するゲームをする。	・作り方がわかったか。 ・自分のカードに表すことができたか。
	1	・作り方を文にしよう。	・作り方を読み取り、カードに表すことができる。	・映像を見ながら、手順の5～9を文にしてカードに書く。 ・ことばに関するゲームをする。	・作り方がわかったか。 ・自分のカードに表すことができたか。
	1 (本時)	・作り方を文にしよう。	・作り方を読み取り、カードに表すことができる。	・映像を見ながら、手順の10～13を文にしてカードに書く。 ・ことばに関するゲームをする。	・作り方がわかったか。 ・自分のカードに表すことができたか。
	1	・作り方を文にしよう。	・作り方を読み取り、カードに表すことができる。	・映像を見ながら、手順の14～17を文にしてカードに書く。 ・ことばに関するゲームをする。	・映像をみて、作り方がわかったか。 ・自分のカードに表すことができたか。
第三次	2	・順番をたしかめながらカードを作ろう。	・作り方や手順を読みながらカードを完成することができる。	・順番を確かめながら、文を読み、カードを作る。	・順番を確かめながら、カードを作ることができたか。

6. 本時の学習（4時間/7時間）

（1）共通の目標

- ・文章などから作り方や手順を読みとることができる。
- ・作り方や手順がわかり、自分のカードに表すことができる。

（2）個人の目標と支援

児童	学習の様子	目 標	支援(手立て)
A	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることばや見たものに反応して行動しようとする。 ・自分の名前を平仮名で書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作を表すことばがわかる。 ・板書のなかの動詞をカードに書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像の中の手の動きに注目できるように声をかける。 ・50音表を手元に置いて見ることができるようにする。 ・「あらう」「むく」など動詞だけ書くようにする。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の理解は難しいが、音読は得意である。 ・習った漢字を入れながら、ゆっくり丁寧に視写することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何をどうしているのか読み取ることができる。 ・板書を見ながら、動詞を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像の手は自分の手のつもりで文を考えるように声をかける。 ・「あらう」「むく」など動詞だけ書くようにする。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・文を読んでもらうと内容の大体を理解することができる。 ・書いてある短い文は見ながら書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何をどうするのか詳しく読み取ることができる。 ・板書を見ながら、カードに助詞を入れた文を書き写すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作や様子を詳しく表すことばも考えるように声をかける。 ・色分けした板書の文のどの部分を書くか確認するように声をかける。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・調理関係の学習には意欲的であり、読もうとする意識も高い。 ・短い文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何をどうするのか詳しく読み取ることができる。 ・板書を見ながら、カードに様子を表すことばや付け足したい言葉を入れた文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作や様子を詳しく表すことばも考えるように声をかける。 ・色分けした板書のどの文を書くか確認できるように声をかける。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読むことは好きであり、時間をかけて内容を理解する。 ・自分でしたことを思い出して短い文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何をどうするのか詳しく読み取ることができる。 ・板書を見ながら、カードに詳しい文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの発言を聞くなどして文章内容を理解できているかを確認する。 ・板書を見ながら「いもをごしごしあらう」などの詳しい文を書くように促す。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚優位で言語反応が良い。 ・聞かれたことに自分なりに思考しようとする。 ・文字をとばしてしまうことがあるが、自力で2語文程度を書くことはできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何をどうするのか詳しく読み取ることができる。 ・板書を見ながら、カードに助詞を入れた文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳しく表すことばも考えるように声をかける。 ・「いもをあらう」「かわをむく」などの助詞に着目するよう声をかける。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの活動を周りを見ながら行うことができる。感受性が高く、自分の持つ語彙で懸命に表現しようとする。 ・誤りはあるものの、一語文を平仮名を思い出しながら書いたり読んだりする事ができる。自分の名前を漢字でかくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作を表すことばがわかる。 ・動詞をカードに書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの発言を聞いて考えるように声をかける。 ・50音表を手元に置いて見ることができるようにする。 ・色分けしたどの部分を書くか確認しながら進める。

(3) 展 開

段階	学習活動	形態	○具体的な活動			・支援、指導事項		
			A	C	D E	B	F G	
導 入	1.前時の学習を想起する。 (3分)	全	○前時の学習を想起し、学習することを確認める。 ・前時までの手順を簡単に振り返る。 ・モデルを掲示し、出来上がりのカードのイメージを再確認する。					
	2.学習内容を確認める。 (1分)		○本時の学習を確認める。 ・各自が声を出して読むように促す。					
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> いもようかんのりょうりカードをつくろう。 </div>					
			・支援員と一緒に読むようにする。			・T2がGのそばで一緒に読むようにする。		
展 開	3.ビデオを見ながら、作り方の順番を文にする。 (30分)	全	○前時の続きからビデオを見る。手順10の「みずをはかる」の文を考える。 ○何をしている場面か個々に話す。 ・個々の目標に沿った意図的指名をする。 ・全員が思考し、適切なことばを導くことができるようにする。 ・動詞は赤、助詞のついたことばは青でT2が板書する。様子のことばは茶色、片付けに関することばは黒で書く。					
			個	・動詞「はかる」を話すようにする。 ・映像の中の手の動きに注目できるように声をかける。		・「はかる」時の様子をあらわすことばはないか考えるように声をかける。 ・Eには周りの発言を聞いて考えるように声をかける。		・Fには「はかる」につながる「みずを」のことばや様子を表すことばも考えるように声をかける。 ・映像の手は自分の手のつもりで文を考えるように声をかける。 ・Gには周りの発言を聞いて考えるように声をかける。
		個		○板書した文をカードに書く。				
			・50音表を支援員に示してもらいながら、動詞だけ書くようにする。		・全文を自力で書くようにする。		・板書を見ながら、自力で動詞を書くようにする。T2はGに50音表で文字を示すようにする。	
		全 個	○手順11「火をつけて、さとうをとかす。」の文を考えて書く。 ・とけたかどうか分かるのは、どんな様子かビデオに注目するように声をかける。 ○手順12「かんでんをいれる。」の文を考えて書く。 ・かんでんは何のために入れるのかを確認する。 ○手順13「ふっとうしたら、ひをとめる。」の文を考えて書く。 ・「ふっとうする」とはどうなることかを確認する。 ・C、D、Fには「ふっとう」の様子の言葉を考えるように声をかける。					
			全 個	・手順10と同様に50音表を支援員に示してもらいながら、11~13の動詞だけ書くようにする。		・手順10と同様に11~13の全文を自力で書くようにする。		・手順10と同様に11~13の文を板書を見ながら、自力で赤の文字を書くようにする。
終 末	4.ことばのクイズをする。 (3分)	全		○今日学習したことばを振り返りながら簡単なクイズをする。 ・T2が3問程度行う。全員が動くことができるような問題にする。 ・T1はGやCの支援につく。				
	5.今日の振り返りをする。 (7分)		○今日のがんばりを発表する。 ・今日の自分のがんばりを自己評価する。 ・友達の良かったことを話す。挙手で指名する。 ・T1が個人の良かった所を教師が褒めるようにする。					
	6.次時の学習を確認める。 (1分)		○手順14からの文を考えていくことを知る。					

<場の設定>

